

9月6日（金）、1年3組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「こんなことがあったよ」です。経験したことから進んで書くことを見付け、必要な事柄を集めて伝えたいことを明確にすることが目標です。

初めに、夏休みの思い出を文に表すことを確認しました。文を書くことで、たくさんの人に伝えられることや、今いない人も、文が書いてあればいつでも読むことができるということを児童に伝えました。このことにより、児童に「書きたい」「書いてみよう」という気持ちをもたせました。そして、①夏休みの出来事を思い出す②学習者用タブレットで作文メモを作る③ペアで伝え合うという学習の見通しをもたせました。



【学習の見通しをもたせるようす】

次に、全員で、夏休みの思い出について話し合いました。児童からは、「海に行った」や「カラオケに行った」など、楽しそうな思い出がたくさん発表されました。「おばあちゃんの家に行った」といった思い出に対しては、「どんなことをしましたか」とさらに聞くことで、「花火をした」や「お寿司を食べた」など、詳しい思い出も引き出すことができました。またその際、教師は、タブレットの探究学習・協働学習ソフトを使って、付箋に思い出を一つ一つ書き留めました。

いよいよ、児童もタブレットを使って作文メモを作ります。教師が書き留めた付箋を児童のタブレットに配信しました。児童は、受け取った付箋の中から、自分の思い出や気持ちに合うものを選び、探究学習・協働学習ソフトのテキストに指で移しました。中には、付箋にはない出来事や気持ちを手書きで付け加える児童も見られました。このように、児童は直感的に作文メモを作ることができました。できた作文メモを、教師に送信（提出）し、教師がみんなで見られるように画面共有をしました。



【タブレットを操作する児童】

その後、ペアで、作文メモを基に、夏休みの思い出について話しました。教師が「おはなしひんと」という話型を示し、どの児童にも話しやすいように工夫しました。児童は、作文メモと「おはなしひんと」を見ながら、楽しそうに思い出を話していました。中には、作文メモを見ず、友達の方を向いて話している児童もいました。



【思い出を話す児童】

低学年の児童は、口頭作文を文字言語に移行していくことができればよいと考えます。つまり、「話したことを、そのまま書くことができる」ということが大切です。今回、タブレットを使い、「メモを書く」という作業を簡略化させたことで、児童はスムーズに作文メモを作り、思い出を話すことができました。話すことができたので、あとは文字に起こすだけです。きっと楽しい夏休みの思い出作文が出来上がることと思います。